

# I 令和3年度の研究について

## 1 研究主題

### スクールワイドPBSにもとづいた教育実践

## 2 研究主題設定の理由

### ○ 今日の教育の動向・課題から

今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予測される。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術の革新により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測困難な時代となっている。2020年度から完全実施された新学習指導要領では、そのような中であっても、主体的に向き合い、広い視野をもって、自分の人生を切り拓いていけるような力を身に付けていくことを重視し、それらを実現させるために必要とされる資質や能力を育み、「社会に開かれた教育課程」を実現することを示している。学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組んだり、協働的な学びによって自己の考えを深めたり、情報を精査して考えを形成し新しいものを想像したりすることが必要になってくる。「社会に開かれた教育課程」の下でこれからの時代に求められる資質・能力を育むためには、子どもたちが自分の価値を認識し、かつ、他者の価値も尊重することができるよう指導をしていかなければならない。また、子どもたちが自信をもって成長し、よりよい社会の担い手となることができるよう、そのための環境づくりをしていく必要がある。

研究主題にあるスクールワイドPBSは、「望ましい行動を育てる」という発想のもと、学校の実情や課題等を踏まえて場面ごとに行動目標を設定し、学校全体ですべての児童を対象に取り組む組織的アプローチである。対象はすべての児童であり、望ましい行動を効果的に教えること、その行動ができた際に賞賛や承認をすること、そして適切に行動しやすい環境を整えることで、望ましい行動を学ぶことができるかとされている。また、スクールワイドPBSは、第1層支援から第3層支援へと階層的で連続的な支援システムを設けている。第1層支援を充実させることによって個別性の高い第2層支援や第3層支援を真に必要とする児童を絞り込むことが可能となり、教員の時間や労力が限られている状況に置いて、よりの確な支援を行うことが可能である。

### ○ 本校の教育目標から

本校では、学校の教育目標に「心豊かに知性をみがき、郷土を愛するたくましい子どもの育成」を掲げ、「すすんで勉強する子ども」「元気よく活動する子ども」「なかよく助け合う子ども」を「めざす児童像」にもつ。これら学校の教育目標、児童像を踏まえ、職員全体の合意にもとづいた「行動マトリクス」を作成し、学校全体で子どもたちへのポジティブな行動支援（スクールワイドPBS）に取り組んでいく。学校全体でのポジティブな行動支援（スクールワイドPBS）に取り組むこと（第一層支援）でも、行動上の問題の減少が見られない場合については、既存の校内支援体制（生徒指導部・特別支援教育部）を生かして、組織的に第二層支援、第三層支援に取り組んでいく。

### ○ 学校の実態から

本校は、令和2年度より「みやぎきの発達障がい教育推進事業」の「学校の特別支援教育力向上事業」のうち、「スクールワイドPBS実践支援校訪問」に指定されている。令和2年度の研究では、スクールワイドPBSの考え方を教職員に浸透させ、すべての児童生徒を対象とした第一層支援に力を入れ、主に以下の三点の取組を行ってきた。一点目は、教職員の、スクールワイドPBSについての理解の浸透である。専門家を招聘し、応用行動分析学にもとづく支援、スクールワイドPBSについての理論研修を行った。二点目は、行動マトリクスの作成である。全教職員がグループに分かれて学校の課題や児童に付けたい力について話し合い、合意のある共通の行動目標（マトリクス）を作成した。三点目は、行動マトリクスの項目のうち、特に意識をして取り組む項目についてキャンペーン活動を行った。キャンペーン期間中は、ポジティブな行動支援を一層意識して行うとともに、スライドを使った教示などに取り組んだ。こうした取組により、教師のポジティブなかかわり方を通して、児童の好ましい変容が見

られることについて一定の理解を得ることができた。

#### ○ 児童の実態から

本校は、新富町の中心部に位置し、各学年3～4学級からなる大規模校である。全体的には、授業中の学習態度も家庭学習も良好ではある。標準学力検査（CRT）の結果は、国語・算数ともに全学年においてほぼ全国平均である。しかし行動上の問題を抱える児童も少なくなく、暴言・私語・授業妨害や指導への不従事といった学級崩壊につながりかねない状況が見られることも少なくない。また、月1回開かれる生徒指導上の問題や特別支援対象の児童として挙げられる児童は増加傾向にあり、20名以上の児童について検討をしている状況がある。

- 上記の理由により、スクールワイドPBSの考え方にもとづいて、児童の行動上の問題を減少させ、児童のよさを認める環境づくりや、学びの土台となる落ち着いた学校生活につなげるとともに、支援の必要な児童への階層的な支援体制の構築を図っていく。それにより学校の教育目標である「心豊かに知性をみがき、郷土を愛するたくましい子どもの育成」の実現につながると考え、本主題を設定した。

本年度の研究は、昨年度から、スクールワイドPBSにもとづいて第一層支援に取り組んできたことをふまえて、現在の校内支援体制を生かして、第2、第3層支援を充実させていくこととする。

### 3 研究の目標

- スクールワイドPBSにもとづいた教育実践を行うことを通して、児童の行動上の問題を減少させ、学びの土台となる落ち着いた学校生活につなげるとともに、支援の必要な児童への階層的な支援体制の構築を図る。

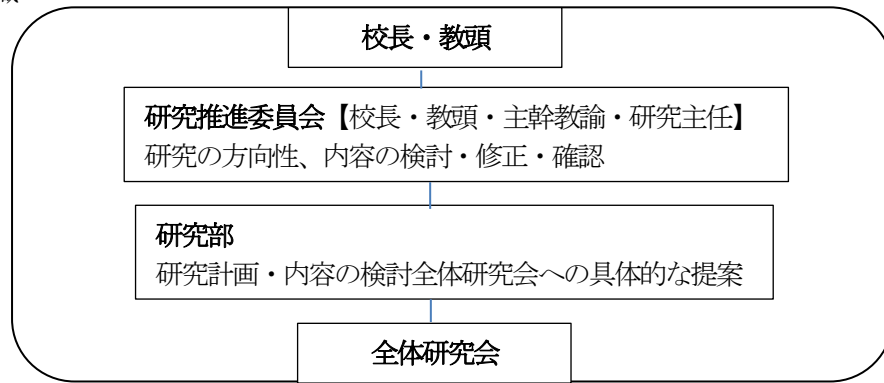
### 4 研究仮説

- スクールワイドPBSにもとづいた教育実践を行い、すべての児童を対象に組織的に教育実践を行えば、児童の行動上の問題は減少し、落ち着いた学校生活につながるであろう。また、真に支援の必要な児童へのよりの確な指導を行うことができるであろう。

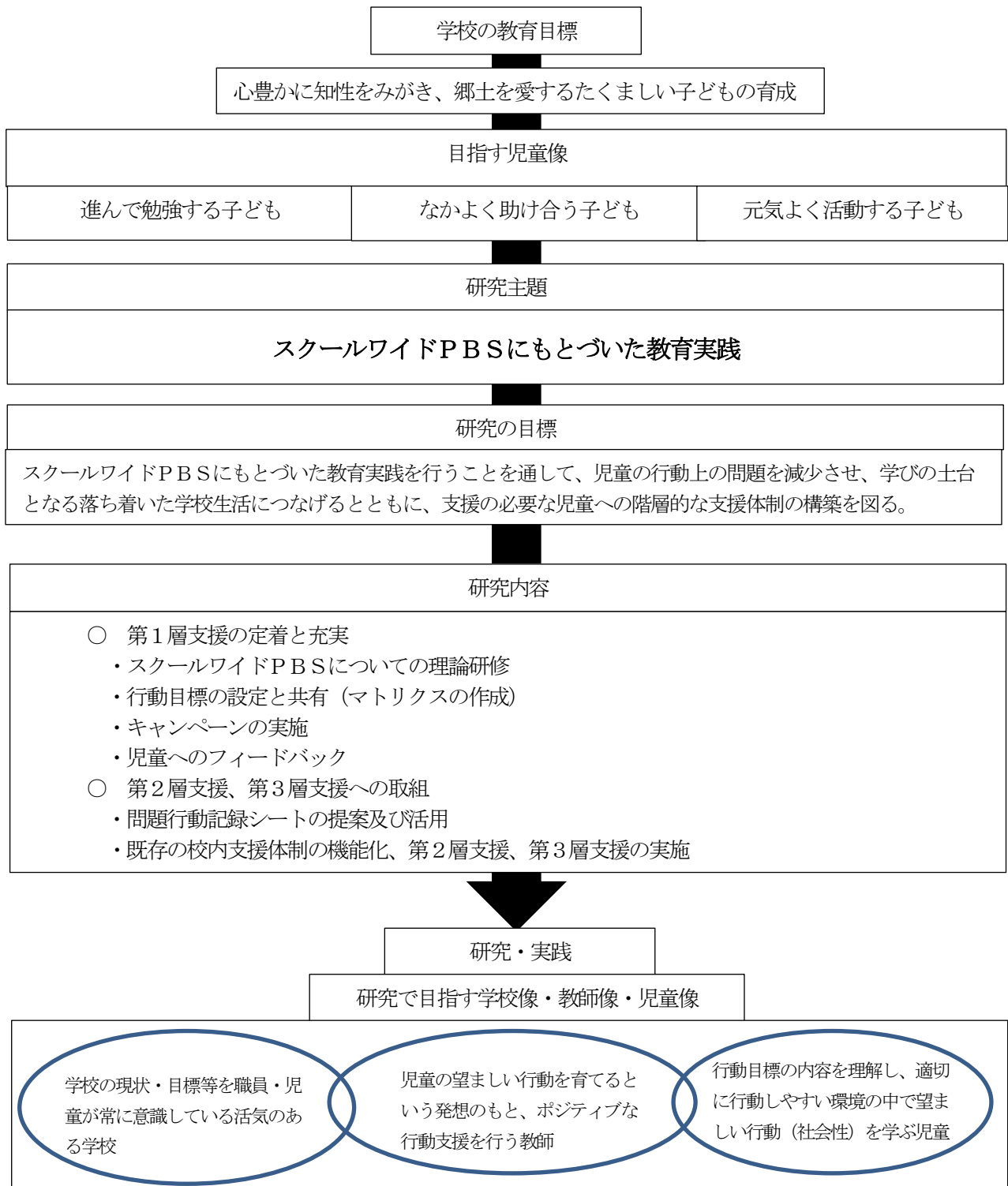
### 5 研究内容

- 第1層支援の定着と充実
  - ・スクールワイドPBSについての理論研修
  - ・行動目標の設定と共有（マトリクス作成）
  - ・キャンペーンの実施
  - ・児童へのフィードバック
- 第2層支援、第3層支援への取組
  - ・問題行動記録シートの提案及び活用
  - ・既存の校内支援体制の機能化、第2層支援、第3層支援の実施

## 6 研究組織



## 7 研究の全体構想



## 8 研究経過

回	月日	主な内容
1	4/14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主題「スクールワイドPBSにもとづいた教育実践」について</li> <li>—スクールワイドPBSとは何か</li> <li>—昨年度までの取組と本年度の研究の方向性について</li> <li>・今後の計画について</li> </ul>
2	5/19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールワイドPBSについて理論研修</li> <li>—宮崎大学教育学部 准教授 半田 健先生 「学校全体で取り組むポジティブ行動支援」</li> </ul>
3	5/26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動目標（マトリクス）作成</li> <li>—各グループで行動マトリクスの作成及び全体での共有</li> </ul>
4	6/2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動目標（マトリクス）の職員への周知</li> <li>・第2、3層支援について</li> <li>—問題行動記録シート及びフローに基づいた支援の流れの提案</li> <li>—第2、3層支援の学年会の実施について</li> </ul>
5	6/23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月キャンペーンの提案</li> <li>—「1分前には着席をしよう」事前評価、キャンペーンの一連の流れについて</li> <li>・行動目標（マトリクス）と月目標の関連について</li> </ul>
	夏季休業中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会活動を活用したPBSの取組について</li> <li>—スクールワイドPBSの視点で、委員会活動の取組を見直すことについての提案</li> <li>—各委員会に分かれての作業</li> </ul>
6	9/1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主題の共通理解及び2学期の方向性について</li> <li>—研究主題、目標、研究の評価と内容について共通理解</li> <li>・委員会活動を活用したPBSの取組について</li> <li>—夏季研修での取組の整理</li> </ul>
7	9/22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2、3層支援学年会</li> <li>—各学年に分かれて、問題行動記録シートに挙がってきた児童についての話し合い</li> </ul>
8	9/29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月キャンペーンについて</li> <li>—「立腰をしよう」事前評価、キャンペーンの一連の流れについて</li> <li>・委員会活動を活用したPBSの取組について取組内容の報告</li> </ul>
9	10/13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会活動を活用したPBSの取組及び第2、3層支援について</li> <li>—各委員会の取組について（図書委員会、給食委員会）報告</li> <li>—第2、3層支援での問題行動の減少した事例について報告</li> <li>・第2、3層支援学年会</li> <li>—各学年に分かれて、問題行動記録シートに挙がってきた児童についての話し合い</li> </ul>
10	11/10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会活動を活用したPBSの取組について</li> <li>—各委員会の取組について今後の計画及び実践例の報告（給食委員会）</li> </ul>
11	11/17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級懇談会用資料～スクールワイドPBSの説明について</li> <li>・第2、3層支援学年会</li> <li>—各学年に分かれて、問題行動記録シートに挙がってきた児童についての話し合い</li> </ul>
12	12/1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月キャンペーン後のフィードバックについて</li> <li>・第2、3層支援学年会</li> <li>—問題行動記録シートの活用状況についての報告</li> <li>—問題行動記録シート及びフロー等第2、3層支援に関するアンケートの実施</li> </ul>
	冬季休業中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月キャンペーンについて</li> <li>—「はきものをそろえよう」事前評価、キャンペーンの一連の流れについて</li> </ul>
14	2/16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主題研アンケートをもとにした来年度の方向性の協議・検討</li> <li>—ロイロノートでのアンケート結果を参照</li> <li>—今年度の反省及び来年度の方向性についての協議</li> </ul>
15	3/7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究のまとめ及び来年度の方向性について</li> <li>—今年度の研究（第1層支援及び第2、3層支援、研究全体）の評価と考察</li> <li>—来年度の研究の方向性についての協議</li> </ul>